

4館イベント情報

角館樺細工伝承館 TEL(54)1700

暮らしの中の絵画展

- 会期:~平成22年1月31日(日)まで
- 休館日:12/28~翌年1/4(ただし、1/1は開館)
- 開館時間:午前9時~午後4時30分まで(入館は午後4時まで)



上 平福百穂筆「蔭の薑図」小横絵
下左 草彌興宗筆「牡丹図」板絵
下右 竹村篁邨筆「菊図」板絵

古くから当地では、山桜の樹皮を利用した樺細工やイタヤカエデの若木を編み込むイタヤ細工、ヒバの伐根と漆が織りなす角館春慶などの木工品が生まれております。

また秋田蘭画の祖小田野直武や、円山四条派の流れを汲む平福穂庵・百穂父子を頂点に数多くの画家が誕生してきました。

こうした美術工芸の伝統は、生活の中に潤いを与えてきましたが、この度の展覧会では屏風・衝立などの大型作品をはじめ、春慶などの塗り物に絵を描いた作品などを展示し、豊かな暮らしの一端を再現するものであります。市民の皆様のご来館をお待ちしております。

角館町平福記念美術館 TEL(54)3888

企画展:「第32回 児童生徒県南美術展」
常設展:「平福穂庵・百穂展」

- 会期:12月5日(土)~翌年1月27日(水)
※年末年始休館(12/28~翌年1/4)
- 開館時間:午前9時~午後5時まで(入館は午後4時半まで)
- 入館料:大人150円/小人無料(仙北市民は入館料無料)
※20名より団体割引有り

新潮社記念文学館 TEL(43)3333

椎名其二 ~ 異郷の地 パリに魅せられ パリに死す ご存知ですか?「ファール昆虫記」を翻訳した人物

椎名其二は1887年角館町田町に生まれる。早稲田大学を中退してアメリカへ渡り、その後農業を志しフランスへと移る。

1922年、フランス人の妻マリーを伴い帰国。大杉栄のあとを受けて「ファール昆虫記」の翻訳を手がける。

1927年思い強く、再びパリへ渡り製本業をしながら執筆を行う。

1962年パリに死す。



*其二が帰国した折、兄が其二のために建てた洋館は今も新潮社文学館近くに残されています。ぜひ一度足を運んでみてください。

仙北市民会館 TEL(43)3143

<12月のイベント>

生保内小学校金管バンド ラストコンサート

- 日時:12月19日(土) 13時開場 13時30分開演
- 入場料:無料
- 問合せ:生保内小学校 TEL(43)0243

楽演祭 2009

- 日時:12月27日(日) 9時開場 10時開演
- 入場料:500円(ワンコイン)
- チケットの取り扱いその他詳細は後日新聞折込にて
- 主催:楽演祭実行委員会
- 問合せ:田口寿宜 TEL090(4049)9502



高井先生書「北の河」色紙の前にて
寄贈作品を受け取る門脇市長

高井有一名誉館長より「北の河」原稿が寄贈される

新潮社記念文学館の名誉館長である作家高井有一氏より11月2日、当文学館において芥川賞受賞作である「北の河」の原稿(60枚)をはじめ、「立原正秋」の原稿(514枚)、芥川賞正賞の時計、読売文学賞の硯、谷崎潤一郎賞の鏡、「後藤昭生・高井有一・古井由吉の受賞を祝う会」のアルバムに加え、これまで寄託を受けていた、父田口省吾の代表作である絵画2点「見物席」(油彩15号)、「林龍作肖像」(洋画50号)が仙北市に寄贈されました。

今春、当館で特別展「立原正秋展」が開催されましたが、高井氏の「北の河」は立原氏の指導を受けるなど、両氏の深い関係も同時に皆様にご紹介しました。この特別展を機会として、このたび作品等所蔵品の数々を寄贈していただけることになりましたが、文学館の菅原館長はこの重要かつ貴重な資料をもとに、今後「田口掬江・田口省吾・高井有一の田口家三代の常設展」を設置し、皆様に喜んでいただけるよう、更に内容の充実をはかりたいと感激していました。